

平成 30 年度 国際理解ワークショップ 進行シート

作成日： 2018 年 8 月 3 日

大 学 名： 新潟国際情報大学

タイトル： 世界の果てまでイッテ食う ～食から見る異文化理解～

グループテーマ： 異文化理解

ファシリテーター：五井 晃、貝沼智子、五十嵐慎吾、後藤瞭太、嶋岡仁奈

1：本ワークショップの要旨

本ワークショップでは、参加者とともに世界の食文化を体験することで、食を通じて異文化を“共感的に理解する”ことを目指します。「見て、味わって、そして感じて、考える」という様々な体験により、違いを楽しめるような工夫を行います。また、身近かつ多様性に富んだ食という題材を使うことで、参加者が世界への関心を深め、地域の魅力を再発見できるような楽しい時間をつくっていきます。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

本ワークショップでは、違い(自分と異なる考え方など)を“共感的に理解する”ことを目的としています。心理カウンセリングなどで用いられているこの共感的理解とは、相手の主観に入り込んで理解する技法で、あたかも自分自身のことのように感じ取り相手を理解しようとする考え方です。大切なことは、相手と自分は違うという前提に立つこと、そして相手の意見を受け止め理解しようと努めることです。ワークショップでは、世界の様々な地域の食事や三大食法(手、箸、ナイフ)などを紹介して、そこから見えてくる違いに着目し、参加者とともに異文化を共感的に理解していくことを目指します。

3：本トピックをとりあげる理由

地域の国際化が進むにつれて新潟にも多くの外国人が訪れるようになり、また身の回りには様々な文化が入り混じって存在しています。多様性が認められるようになった現代社会において、自分と異なる存在とどう関わっていくかという問いは、身近な人間関係から国際問題にまで幅広く問うことができる重要なテーマだと考えました。

4 : 活動過程

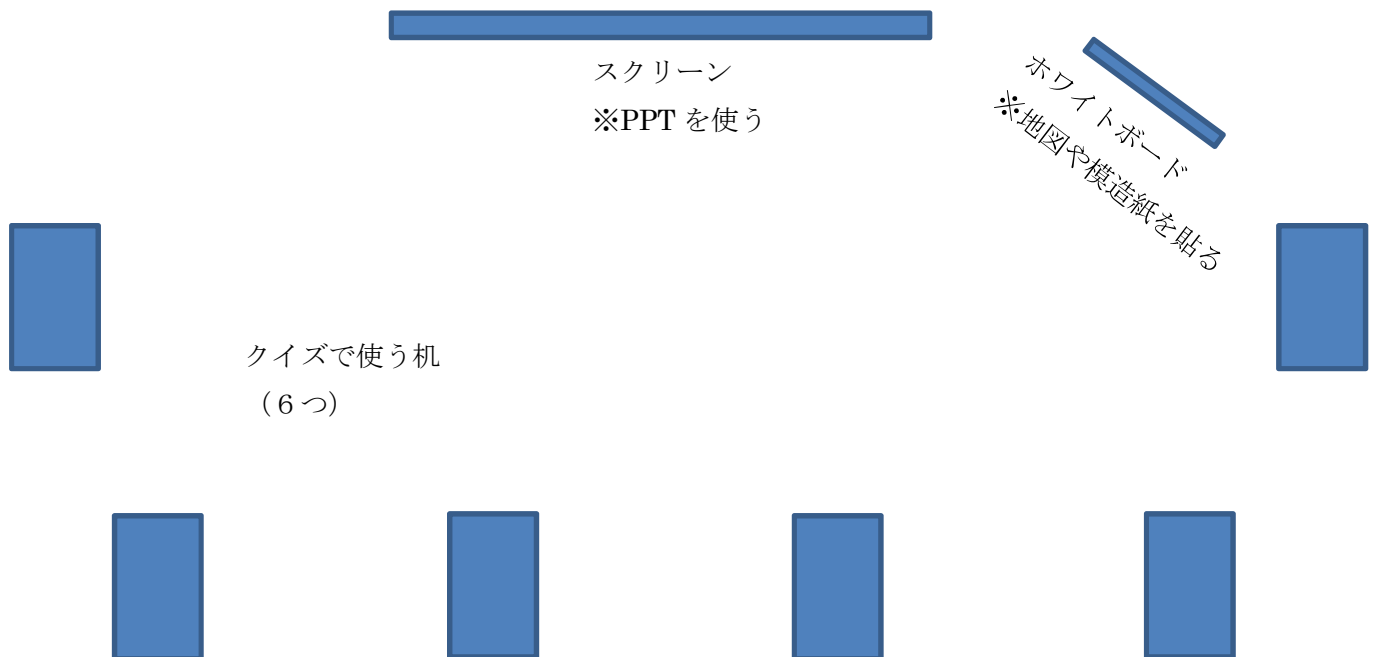
(使用時間 : 85分 参加人数 : 未定)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
<p>導入 :起 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ (1分) ・チーム分け (5分) ・アイスブレイク (12分) ・全体説明 (2分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「マッチングゲーム」(7分) ・「もしゲーム」(5分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の自己紹介 ・配られたカードに書かれている地域名が同じ参加者同士でチームを組む ・チーム内でカードの料理とその料理が食べられている国名をマッチングさせる ・参加者同士で2人組に分かれてもらい、「自分を色で例えると？」という問いかけをする ・相手の色を予想→質問→自分と相手の答えの理由をお互いに発表 ※繰り返す ・WS全体の流れを説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きながらチーム分けをすることによって緊張をほぐす ・WSのテーマが食であることを示す ・緊張をほぐす ・自分の考えと他者の考えが違うことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・招待状に見立てた様々な国の料理の写真つきカード ・国名が書かれたカードと最初に配った招待状 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべくWSが始まる前に配っておく(できなければあいさつ後に配る)

<p>展開：承 (24分)</p> <p>・動画(5分)</p>		<p>・各地域の特徴を紹介した1分程度の映像を流す</p>	<p>・クイズに入る前に地域の特徴をつかんでもらう</p>	<p>・プロジェクターで映像を流す</p>	<p>・会場の照明を消す</p>
<p>・クイズ(19分)</p>	<p>・説明(3分)</p> <p>・クイズラリー(10分)</p>	<p>・各チームのクイズ中の動きの説明する</p> <p>・参加者は各地域につき2問ずつ用意されたクイズを解く</p> <p>・2問解き終わったら次の地域に移動する (結果的に全6地域を回り、12問のクイズを解くことになる)</p>	<p>・世界の食文化を体験する</p> <p>・3大食法を通じて地域ごとの食べ方の違いを知る</p>	<p>・机、椅子</p> <p>・クイズに使う道具(食器、写真、地図など)</p> <p>・解答用紙、ペン</p>	<p>・参加者はチームでまとまって動く</p> <p>・メインファシリテーターが次の地域に移動するタイミングの合図をする</p>
	<p>・答え合わせ・解説(6分)</p>	<p>・各地域についているファシリテーターが答えを発表した後、担当者がクイズに関する解説を加える</p>			

<p>発展：転 (23分)</p> <p>・ディベート (23分)</p>	<p>・説明(3分)</p> <p>・第1問「身近な テーマ」(10分)</p> <p>・第2問「食に関 するテーマ」(10 分)</p>	<p>・各チームでテー マを選び、テー マに関して二手に 分かれて、ディベ ートを行う</p> <p>・それぞれの主張 をお互いに発表 し、肯定できる点 を見つけあう(決 して否定しない)</p>	<p>・自分と異なる 意見に対して、共 感的に理解する</p> <p>・相手に寄り添 い、出来るだけ近 い目線に立って みる</p>	<p>・模造紙</p>	<p>・意見が均等に分 かれるようなテー マを選択する</p>
<p>まとめ：結 (18分)</p> <p>・ディベート の感想共有 (10分)</p> <p>・発表(5分)</p> <p>・まとめ(3 分)</p>		<p>・WSの感想を各チ ーム内で一人ず つ言ってもらう</p> <p>・各チーム1分程 度で感想を発表 してもらう</p> <p>・全体を通じて伝 えたかったこと をまとめる</p>	<p>・ディベートを やってみての率 直な感想を共有 する</p> <p>・自分と異なる 他者を共感的に 理解する大切さ を伝える</p>	<p>・模造紙</p>	<p>・受け入れられな かったことなども 含めて率直な感想 を引き出せるよう にする</p>

5 : 会場のセッティング



6 : 使用する教材

- ・ 招待状 (参加人数分)
- ・ 国名カード (ひと地域 6 カ国 × 6 地域分)
- ・ 机、イス (6つ)
- ・ クイズで使用する道具 (食器、写真、地図など)
- ・ ペン (参加人数分)
- ・ クイズの解答用紙 (チーム数分)
- ・ ディベートの用紙 (模造紙チーム数分 × 2 枚)

7 : 参考にした資料

岡田哲 著『食の文化を知る事典』東京堂出版、1998 年

河合利光 著『世界の食に学ぶ - 国際化の比較食文化論』時潮社、2011 年

サカイ優佳子、田平恵美 著『世界の料理』ポプラ社、2007 年

石毛直道、他 編『世界の食文化①~④』農山漁村文化協会、2007 年

心理カウンセラーの教科書「共感的理解と客観的理解 - 共感とは？理解とは？（カウンセリング技法）」

<http://sinri-counselor.com/empathic-and-objective-understanding/> (2018/8/2 最終閲覧)

8 : その他

- ・ 派遣先と相談のうえ可能であれば、休憩時間に南アメリカのマテ茶をふるまう。